

会 議 録

会議の名称	中野市立小学校及び中学校適正規模等基本方針（案）について 保護者懇談会
日時	平成 27 年 12 月 16 日（水） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 23 分
会場	中野市西部公民館 多目的ホール
出席者等	<ul style="list-style-type: none">・参加者 17 人・教育委員会出席者 12 人 教育委員 5 人、教育委員会事務局 7 人・報道機関 1 人
次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 あいさつ3 基本方針（案）について4 質疑5 閉会
発言内容等	別紙のとおり

(別紙)

- 1 開会 進行：教育次長
- 2 あいさつ 教育委員長、教育長
- 3 基本方針（案）について 学校教育課長から資料に基づき説明
- 4 質疑

意見

- 本日で保護者懇談会3回目ということで、今までどのような意見があったか情報開示していただくことは可能ですか。

回答

- 全部終わった段階でまとめさせていただき、できる範囲で公開していきたいと考えています。

意見

- すみません、質問の仕方がまずかったようで、今知りたいのです。各地区でどのような考え方が大勢を占めたのか知りたいのですが。

回答

- まず北部地区ですが、新聞報道でもでておりましたように、1学級3人という学校もございまして、ざっくりですが、ぜひ統合を進めてほしいというご意見が大勢を占めたかなと受け止めております。特に数人の学校では、保護者の方は日頃学校の様子見ている、あれでは普通ではないと感じていらっしゃる、一時も早くという声もございました。ただ、統合と言いつつも、北部の話でいきますと、平岡へ行った場合の平岡小の用地、交通安全やスクールバスを停める場所、通学路、スクールバスの運行について、安全に注意してやってもらわないと困ると、条件付きと言ったら堅いのですが、そのような雰囲気でもございました。
- それから昨日の中央公民館でございます。参加者が少なかったのですが、今まで市民説明会でやってきたことを、どうまとめようとしているのか、PTAの皆さんの意見をまとめて、いつどのようにスケジュール的に持っていくつもりなのかという趣旨のご意見がありました。
- それから、日野地区における歴史的な話や、中野小校区はあのままでいいのか、あるいは自分達の校区において、延徳小へ行くのがいいのか、中野小へ行くのがいいのかというご意見がありました。

意見

- 今ご説明いただいた人数が少ない対象地区の皆さんからしてみると、切実な思いだと思います。前回小学校の方で発言させてもらいましたが、私の妻も長野市ですけれども、統合により、やはり学校が無くなりまして、近くのやや大きな所に出ていくと・・・ そうなった時にその地区の状況は、小学校から遠い所へ行くのは大変ということで、学校の近くに移ったりしているようです。職場は変わらず、お家は残っているけれども多少なりの子どもの負担を考えてのこともあったりしているようです。そういうことが出来ないご家庭は、今ある家から通っているということです。私もこの点に関しては、実際にこういう経験を家族通じてしてきていますので、規模が少なければやむを得ない方向、逆にいえば少ない状態であれば、今回ご苦労いただいている皆さんの立場にならなくても、当事者の方からもう少し何とかという話で統合の話があるのかもしれませんが。当地区に立ち返って確認ですが、目的のところは2点ほど気になったところがありまして、9年間の継続した教育カリキュラムの維持、それから人間関係の固定化を除くために複数学級にして、クラス替えという話がございます。私自身は、小学校、中学校、高校で一切そういうことがなかったものですから、その意味がそもそも分からないところがあります。
- あと、カリキュラムでは、6.3.3.4制のそもそも論として、A地区の小学校から出てきて、CあるいはBに行ったり、CからDに行こうが、BからDに行こうが、そこでカリキュラム上の何かがあること自体が問題なのではないかと思う。そういう観点で、そもそも論としてスタートしたベースに疑問があります。
- ただ先ほども申し上げましたが、小規模というところでやむを得ないところもあるのかと思います。立ち返って今後のことを考えますと、単学級がしばらく続くのであれば、このままにさせていただきたい。それから私の子どもは小学校5年生で、中学校の話をしていても実質ここに載っている状況は、いわゆる関係者ではなくなってしまうけれども、この地区で育った思いというのもありまして、講堂の後ろにあります湯本先生が作詞・作曲していただいたあの校歌をなくすようなことはやめていただきたい。そんな思いがありまして、この地区に関しては、こういう問題を絡みながらも当面維持ができるのであればこのままにさせていただきたい。
- 逆に私の方からお伺いしたいのですが、平野地区の岩船、吉田地区の人口過密状態になっているところを直す方が、規模適正という形では先なのではないか。聞いた話では、七瀬、片塩、西江部、東江部の一部は増えているのかもしれませんが、子どもさんはそんなに多くはない。そんな中で組替えの話をしていても難しいですし、小学校適正規模ということでいけば、中野小学校と平野小学校からまず解体して、もう少し適正に見直してそれぞれ少ない学校へ通学区を変えてという方法論はだめかなと個人的には思いました。

回答

- 全体的にご意見として伺っておけばよろしいでしょうか。

意見

- このまま統合の話は待ってくださいというのが私の意見です。ただ、本来の小規模校はなんらかの対策をしなければならないですし、逆に住むのに便利な所に人は集まります。岩船地区、吉田地区、東江部地区、大きなお店の近くとか、生活に便利な所に人は集まりますので、そういう過剰になっている所をもう少し周りへと思います。先週新聞にも載っていましたが、統合区の話だけで進めていくというのはまずい、もう少し別の角度からのアプローチがあるのではと思います。

回答

- 現時点では通学区の見直しはしない、行政区の枠を変えない、それが今回の基本方針案のまとめの中では良いという判断でありますのでご理解をお願いします。

意見

- 通学区の見直しはしないという話から始まっているのですが、統合みたいな形である地区から今まで通ったことがない地区へ行くということで、こちらの地区からしてみますと、校区が変更になります。行き先が違って来るわけですから、それは話の筋からして論理的にもおかしいのではないかと思います。

回答

- それは小学校区が違うということで、中学校区は一緒という捉え方でよろしいでしょうか。

意見

- それは構いません。

回答

- もし統合した場合、この中野平中学校区については、平野、高丘、両方とも狭隘的な部分もあり、場所はどうなるか分かりませんが、今おっしゃったことはわかりますので、また意見としてお伺いしておきます。

意見

- 校舎の移りについてはお考えいただくということでしたが、ご存知のように小沼の方の水田地区は、土地は広い所ですが、土地が安定化してない所で、校舎を建てる地域ではなくなってきています。あとどこにという話になりますと、今地すべりとかの問題がでてきていますが、当然各地区の沢になっている場所と通りがやっぱり交差点が当たらないわけですよ、そうすると、新しいものを作ること自体が難しいのではないかと思います。高丘地区と平野地区を考えていくと、多過ぎるところを解消したらどうでしょう

ということと、高丘地区については、30人前後で維持をしているので、しばらく変えないでくださいというのが私の意見です。

意見

- 学区の見直しを3ページ2(1)のところで現実的ではないと考えるというところを読むと、同じ中学校に行くということを大事にしたい、それはそうかなあと思います。この高丘地区だと、高丘小と平野小が中野平中学校に行くので、高丘と平野の学区を変えても皆同じ中学に行くわけですよ。そうすると、小学校の学区も変えるということも視野に入れて全然問題ないと思う。ここに書いてあることを考えれば、現実的ではないと書いてあるが、見直す可能性があると考えていいのか、つまり通学区の見直しはしないというのが先にありきになってしまっている、それは変だなと思います。

回答

- 通学区域の見直しについてはいろいろなご意見がありますが、現実的ではないというのは、中野地域、豊田地域もそうですが、通学区を変えると行政区や付き合いの問題があります。そこを考慮すると、今回は通学区の見直しをかけないで現状のまま、また、現状の校舎を有効に活用することが、今の時点ではベターということでもとめたものです。通学区域の見直しをすれば均等にできるかもしれませんが、そこまでは現実的ではないということでお示ししてあります。

意見

- 統合するということはこの地域としては学区が変わることになるわけですよ、そのへんを考慮していただきたいと思います。統合して違う所に通うとなると、生活のあり方や地域のあり方もかなり変わることになるので、ぜひ検討していただければと思います。
- 統合のことで私の子どもが中学3年、中学1年、小学5年、保育園といるのですが、子どもに統合のことを聞いてみたら、統合いいねって上の子が言ったんです。統合すると学級の人数が少なくなるのではないかと言ったので、私がそうはならないと思うよ、35人になるかもよ、という話をしたら、それなら統合はいやだと言っていました。クラス35人というのは結構多いかなと思います。小5の息子のクラスが35人で、やはり先生がいっぱいいっぱいで大変そうです。上の2人のときはぎりぎり2クラスになって、18人でとてもいい環境で勉強したなあと思いました。子どもに聞いてもやっぱり20人くらいがいいと、中学校に行ったら30人くらいいい、皆と仲良くなれるわけではないし、少ない方がいいかなということ聞いています。
- 何が聞きたいのかというと、前回の説明会の繰り返しになってしまうかもしれませんが、答申書の中では25人がいいだろうと、20人くらいという言葉も議事録の中にはありまして、私も20人、25人くらいがいいかなと思うのですが、それが30人、35人と判断

した根拠を教えていただければと思います。前回の議事録を見ても理由については分からなかったなので、もう一度教えて下さい。

回答

- 前回のお答えが不明確だったということで申し訳なかったです。学級編成が市町村で自由に10人、20人と決めた場合でも、県から正規の先生を派遣してもらえればこんなありがたいことはないんです。しかし、先程から申しております県基準というのがありまして、35人で1クラス、36人になると18人、18人に分れるので、県の教育委員会から、正規の先生がそれぞれのクラスに配置されるようになっていきます。それをもし中野市が1クラス10人にするとした場合、県の方からは、基準以外の先生は配置しません、あとは市でやってくださいとなります。ということで、市で、教壇に立てる先生、学級担任ができる先生を探すとなると、なかなかそういう先生はいらっしゃらないし、また教育には予算のことを言っただけではいけないということもございしますが、相当な予算付けも必要になってきますので、今のところ苦しい状態であります。はっきりとダメですという断言ができませんが、非常に苦しいところです。これは長野県下どこの市町村も同じ状況でございまして、できるだけ市町村でカバーしようという努力はしておりますが、来ていただける先生というのは本当になかなか見つからない現状がございします。

意見

- 私は、外から8年前に越してきて安源寺に住んでいて子育て中です。上が小4年、2年、2歳児がいます。高丘に来たのは、今住んでいる所から学校まで歩いて1km圏内の所ということで、家を建てました。住んでみて、高丘は本当に人が良くて人間味があふれる地域だなと感じています。息子たちも学校に通い始めて本当にのびのびと、のんびりと楽しく学校に通っています。そんな中で、この統合の話がでて正直どうしてという思いがいっぱいです。一つは、統合されたら学校がどこに建つかははっきりしていないということですが、最初統合と聞いたときには、平野小に行くんだなというのが頭にあったので、そんな遠くまでどうやって行くの？バス？じゃあ歩いて学校に通うことは出来なくなるの？ということをもっと最初に思いました。やはり小学校というのは、歩いて行ける距離にあるのが当たり前だし、それがあつべき姿だと思います。小学生というのは、学校に行く友だちとのふれあいだったり、帰ってくるときにいつも畑で仕事しているおじちゃんと話をするとか、そういう人間性や感性がすごく育つ時期だと思うので、歩いていけなくなる所に学校が移ってしまうというのは、すごいショックで出来ればやめて欲しいなというのが正直なところです。
- 先程も話があったように、9年後の人数を見ると今とそんなに大きく変わらない、むしろ単数クラスではあるけれど、それこそ先生達は大変だと思うけれど、教育の質さえ高まっていけば、1クラスで何か問題起きたときでもきっと根本解決ができるのではないかと、少人数ならではの学校教育ができるのではないかなと、すごく感じます。そんなに人数が変わらないので、今ここで統合というような話があがってしまうと、高丘はの

んびりしていていい所だと思っけていても、統合になるんだったら家を建てるのをやめようかなと、実際に私の周りでもそういう方がいたので、余計に高丘には人が入ってこなくなるし、学校が近くにないというのは子育てしにくい地域になるということで、これからますます高丘地域の少子化が進んでいくことは間違いないと感じています。ここで子育てして子どもを育てていくからには、ママ友達とか子育て仲間がいて、子どもたちには同じくらいの年齢の友だちがいて、そういう中で子ども達は育ってほしいなと思うので、ならば呼び込めるような、土地は分譲している所もあります、草間の中も空いている所があると聞きます、だから高丘の良さをもっとアピールしながら子どもが増える方向で考えていければいいなと漠然とですが思っています。町おこしの取組もいろんな始まっています。広報でもありましたが、市も一緒になって高丘地域や過疎の地域を盛り上げて、中野市の中心だけではなくて、のどかな所でも子育てしやすい、そんな中野市になっていければいいなと、統合問題の話がもちあがって改めて感じました。

回答

- たしかに歩いて通える範囲というのはいいと思いますが、現実的には既に大俣地区や他の地域でも、原則国の基準により4キロ以上ある場合には公共交通機関やスクールバスで通学ということになっています。それと、市の方で人口ビジョンを今打ち出しまして、この西部地域、中野市全体の人口減少に少しでも歯止めをかけようと計画をたてておりますので、教育委員会も市と連携していきたいと思っています。

意見

- 小学校2年生と年長と2歳の子どもがいます。この統廃合案がもち上がったから、私も関心があってインターネット等を利用して自分でもいろいろ調べてみました。その中から少しお話をさせていただきます。今、世界の流れは小さな学校、小さなクラスに向かっているそうです。諸外国の方でどうして学校規模が小さくなっているかという、教育効果が高いからだそうです。小さな学校、小さなクラスほど学習意欲や態度に積極性がでて、子ども達の人格形成や人間的成長にとっても効果があるということが実証されています。OECDの図表で見る教育2013年度版によれば、日本の1学級あたりの児童生徒数は27.9人、OECDの平均21.2人を上回っています。学校規模としては外国は100人から200人程度、日本は300人を超えて2~3倍になっています。さらに今進められている統廃合案に沿って、高丘、平野地区に当てはめれば、1学級の人数が25~35人、全児童数が644人にもなります。これは世界の流れに逆行しています。皆さんは専門家なのでこのへんはご存知かと思います。この点を無視して統廃合を進めるというのは、本当に子ども達のことを考えてのことなのでしょうか。地区によっては、児童数が本当に少なく子ども達のことを考えて統廃合を望む声もあるのかもしれないのですが、各地区によって保護者や地区の方々の考え方はさまざまであって、環境もいろいろ違うと思うのです。基本方針案を四角四面にすべてを当てはめようとするのではなくて、その地域の実状や声に合わせて柔軟に対応していただきたいなと思っています。

- 先日豊田公民館で行われました前長野県教育長の山口先生の講演に行っていました。とても参考になる貴重なお話が聞けました。この中で山口先生は、かつて子ども達は地域の中に遊び場所と、地域の中で役割分担があったとおっしゃっていました。ここで活躍する子ども達は、学校で活躍する子ども達とは違って、地域には地域の評価があって、子ども達に対する複数の評価があったそうです。ともすると、学校の評価が唯一のものになっている、現在では忘れられている点であるそうです。子どもの成長には様々な観点からの評価が重要であることは、言うまでもないと思います。地域の中で子ども達が認められて勉強ができない子どもも自分だってすごいじゃん、という自己肯定感に繋がっていました。しかし、今地域の力が落ちてきています。自己肯定感が低い子ども達も多くいます。ここで統廃合によって地域の核となる学校がなくなって、地域から人や子どもがいなくなったらどうなるのでしょうか。ますます地域の力が落ちて、子ども達が自己肯定感を育むことが難しい環境が作りあげられてしまいます。これが子ども達にとって本当に良いことなのでしょうか。
- 最後に今日は保護者が代表でこの懇談会が開かれているわけですがけれども、特に保育園児をもつ親にとって託児もなく、18時にここに来るといのはかなり厳しいことなのではないかと思います。皆さんもお仕事の後で難しいかもしれないですが、形式ではなくて本当に保護者の意見を聞きたいということでしたら、託児所を設けるなどの配慮が必要だったのではないかなと思います。この点ご検討いただきますよう、よろしくお願い致します。

回答

- 話が前後して申し訳ないですが、私も山口利幸先生のお話をお聞きしました。地域の子どもは地域で育てるということを山口先生は理念に持っておられます。日本の社会そのものが、昔のようなじいちゃん、ばあちゃん、両親、子ども、場合によっては曾じいちゃんと一緒に住むということが、昭和30年頃からがぐっと減っている。私も山口先生と同じ世代なものですから、山口先生の理念はよくわかります。
- 先程OECDの話をしてくださいました。私は専門家ではないですが、昔から言われているのは、アメリカの教育形態システムをびったりというわけではありませんが、日本も導入したというような経過があります。OECDからでている数字を見ると、日本、アメリカ、韓国は極めて似通っています。それに対して、いわゆる北欧であるフィンランド、スウェーデン、デンマークというのは相、両極となっています。今おっしゃった小さな学校、小さな学級が世界の潮流であるとおっしゃいましたが、ただ私は北欧に行って、北欧の学校で勤務した経験もありませんので、聞いたり、本で読んだりする中での話ですが、例えばフィンランドは、極端な言い方をしますと、日本のような一斉授業の形態ではありません。教科書は資料集です。先生が教壇に立って皆を集めて黒板に字を書いてやるスタイルではなくて、グループごとで、しかも教師は決して指示をしない、あくまでもテーマを持って子どもの邪魔をしないように自由にやらせると、子どもは教室を離れて他の場所へ行ってもいいし、やる気がなかったら教室を出て行ってもいいという、

誠に自由なそれでいて学力もつくという結果もたしかに出ています。日本とかなり形式、形態が違うもんですから、日本にそのまま導入したとき、そのへんがどうなのかなと感じています。

- 開催時間についてですが、教育委員会の中でも託児の話が出ました。ちょうど今懇談会が終わったところもあれば、まだ継続中のところもあるかと思いますが、それぞれ各学校の状況を聞きまして、懇談をしている流れでできるだけ18時に近い方がいいのかな、でも夕飯時だと困るかなといういろいろ議した結果今回の時間設定となりました。今後はご意見を参考にしながら考えていきたいと思っています。

意見

- 土日とか土日の昼間とか、そういうことも本当に声を聞きたいのであれば可能ではないのかなと思います。

意見

- まず、歩いて行ける距離のことで先程も意見がでましたけど、うちの息子は6歳、4歳、一番下が今月1歳になる子がいるのですが、まだ小学校に行っていません。今年9月に行われた小学校の運動会に行ったのですが、近所のおじいちゃんやおばあちゃんが手押し車を押して見に来ていらっしゃいました。それはきっと曾孫さんがいらっしゃるわけではないけど、子どもたちの元気な声を聞いて元気になりたいというおじいちゃんやおばあちゃんが学校に来ている姿を見て、小学校の子どもたちだけの問題ではなくて、地域にとって学校はどんな在り方なのかなとすごく思いました。言い方は悪いのかもしれないけど、おじいちゃんおばあちゃんの楽しみを取り上げないでもらいたいです。
- それと私もインターネットで調べてみたのですが、世界各地から学校規模と教育効果について研究された論文があります。教育機関は小さくはならない、生徒100人を上回らない規模というのはどの論文でも意見が一致しているそうです。また、一般的に組織や集団の規模が大きくなればなるほど、何々をしなければならぬとか、何々を規制することが多くなると思います。学校だけじゃなくて組織もそうだと思うんです。私は自分の子どもたちにのびのびと育てほしいと願っています。この点からも今の高丘小学校は理想的な人数だと思っています。一人ひとりの子ども達の個性が活きる教育ができるのは、やはり小さな学校だからこそ可能になるのではないかと思うのですが、皆さんの立場上お答えしにくいことなのかもしれませんが、もしこの中で元教師の方がいらっしゃれば、そう思いませんかという質問をお聞きしたいです。

回答

- 私が学校で勤務している中で、まだ20代、30代の頃は、教室の中で30人、40人という数でして、その中で学力がついたかどうかというのは、ついていませんとか、ついていきますというのは言えません。ただただ無我夢中で飛び回っていたというのが実感でございます。現職の先生にもお聞きしたところ、小規模の学校になると、子ども達一人ひ

とりに負担にならない範囲で役割分担を持たせることができるのか、先生たちが教材研究や、明日の授業予定を余裕をもってたてられるなどと言っております。またその反面、集団の力や迫力を味あわせてあげたいと思うけれど数に限りがあるから難しい、あるいは修学旅行、登山のときに、学年単位で動くケースが多いものですから、登山とか運動会の目的になっている社会ルールを学ばせるとか、集団訓練とか、そういうものが十分とは言えない、そんな声が聞こえてきます。

意見

- たしかにデータなんて言われると難しくて嫌になってしまうと思うのですが、少人数の方が学力的には向上するというのが調べるとデータで出てくるんです。論文、文科省のデメリット、メリットを見ると、たしかに少人数だと切磋琢磨できないとかでてきますが、全然違うことが書いてあるんですけど、〇〇小では一学年が20人以下が理想的とされる、世界的にはそういう傾向にある、だけど文科省の方を見ると、少人数というのがどのくらいの人数のことなのか分からない。高丘小学校に関しては、すぐに統合という話は必要ないのではと思います。登山とかも私は大人数の方が大変だと思うのですが。たしかにいろんな事があると思いますが、少人数の方がいろんな人間関係を育むと思うのですが、他に先生はいらっしゃいますか。

回答

- 私も小学校の教師を長年やってきました。私が担任したクラスで一番少なくて20人、それから35人くらいまでをもった体験があります。20人でも少ないというわけではなくて、20人でも30人くらいに感じるときもありました。やはりたくさんいるといろいろな子ども達からいろいろな意見がでる、いろいろな意見に触れられる、それが一番大事な事かなと思います。これから社会に出たときにいろいろな人と関わりながら生きていく、生涯学習とよく言われていますけど、やはりどのように生きていくのかという一番根本のところ、小学校で学ぶことが多いと思います。その一番大事なところは人と関わりながら学んでいく、そういう姿勢でいるのが大事だと思うんです。一方的に教え込まれるということよりも、自分で人の意見を聞きながら、分からないときは友達の考えを参考にしながら、友達と関わっていく、そうしながら自分の意見を膨らませていく、深めていくというのがとても大事かなと思うので、あまりたくさんだと先生方の目が入らないということもあると思いますが、ある程度の人数は必要ではないかと思います。

意見

- じゃあ高丘小学校の人数はどうですか。

回答

- そうですね、今いいなというふうに思います。

意見

- 中学生と小学生と8ヶ月になる子どもの子育て中ですが、まず高丘小学校をなくしてほしくないというのが子どもの気持ちとして聞いていることなので、伝えたいなという思いで来ました。
- 私自身も生まれ育って卒業してきた小学校なので、愛着もありますし、地域の方々の関わりも今までずっと人生の中で経験してきた、おじいちゃんおばあちゃんが近所にいるから、あの子見たことあるとか、自分の子じゃなくてもそういう繋がりから関わってきてくれたり、協力してくれたり、おじいちゃんおばあちゃんとの関係性がすごく強いなというのを高丘小学校を見ていて感じますので、統合して学校がなくなってしまうのは、非常によろしくないと思っています。
- 少人数になってきて、運営が大変とか、人間関係が薄くなってしまおうとか、子ども同士の関わりが大人数になったことで期待できるという話もあるのですが、今現在の高丘小学校の人数は、2学級だったのが1学級になって正直大変ですが、この先も近所に家が建ったり、世帯数が本当に減っているのかなと疑問に思ったり、これから子どもが増えることも期待できる状態だと思うので、急いで無くすのは正直反対です。
- 中学生の子どもをみても、高丘小学校でのびのびと自分の意見が言えたり、人と関わる力があるのは、高丘小学校を卒業できたからだと感じるころがあって、集団ルールや社会性を学ぶのにたくさんの人数の方がいいと言いますが、高丘小学校でも十分できるのかなと思います。中学生になって平野小と一緒にやりやりのようなものを感じて中学校生活を送っていますが、高丘小学校の段階で、子どもたちの関係性を密にし、友達関係、保護者の繋がり、地域の繋がりをしっかりさせたところで、他の刺激を受けてスタートしてもいいのではないかと思います。
- 統合になると、小学校に歩いていけないんだろかなとこの話を聞いたときに漠然と思いました。3番目の子どもはスクールバスなのかなと思ったら、やはり学校は歩いて行った方がこの地域を見ていろいろなものを感じて、いろいろな地域のご近所の方とのふれ合う時間がもてるのに、スクールバスになるとなくなっちゃうのかなと思うと寂しいし、高丘小学校は今のままでいてほしいと思っています。
- 今まで話をされてきた保護者の方の話でもあったように、学校がなくなったら、引っ越してくる人や家を建ててくれる人も減ってしまうのは、本当にその通りだなと思うので、そういう面からもぜひ残してほしいと思います。

意見

- 大人数はどうだとか、少人数はどうだったとかの話聞きながら感じたのですが、聞いていると、少人数は少人数でメリット、デメリットがあると思うし、大きくなったらなったらでメリット、デメリットがあると思います。ただ私は高丘小学校を今の段階で、まだ9年後もこの状況で残って子どもの人数があるというのであれば、少人数のメリットをもっと活かせるよう発想転換ができればいいなと、大人数だからいい、大きい学校

がいい、小さい方がいいとかだと堂々巡りになるのですが、やはり今の地域にある学校の良さを伸ばしてほしいなと感じました。

意見

- 少人数の方が良い悪いの話で思いましたのですが、私は保育園、小学校、中学校の教育現場でお仕事をさせてもらった経験がありまして、経験は薄いのですが、やはり少人数で人間関係ができたうえで、自信とかがついているのではないかと子どもたちの姿を見てきて感じているところです。自信がついていない状態で大人数の中に入り埋もれてしまうという危険性を感じているので、35人学級編成となったときも多いなと思ったのが正直で、制度がそのように決まってしまうので仕方がないのですが、大人数デビューするのは小学校の段階じゃなくてもいいのでは、もっと人間をつくりあげるまででいいのではと感じています。

意見

- 一番下に2歳の子どもがおり、上2人は小学校に通っています。適正規模の基本的な考え方の最初に書いてある文章が非常にいいこと書いてあるなと思っています。ただ、こういったことを理想と掲げて進めるうえで、学校統合が一番ベストな方法なのかというのはちょっと疑問があります。私も高丘小学校に通って、中学にあがり平野小学校の同じ年代の人と新しく会うと、こんな人たちがいるんだと、まずそこでショックを受け、そして新たな発見がありました。仮に小学校を大規模にすることで、多様な人間関係を求めるというところに、疑問が残ります。なぜかという、大人数だと嫌な人は嫌で付き合わないで、別の子と付き合えばいいわけです。そのように、どこの組織もそうだと思いますが、私も大人になってもそうですが、大規模になればなるほど、人間関係がかなり希薄化されてくるのではないかと感じています。それが小学校だと、一番そこに表れるのではないかと思います。高丘小学校くらいの規模も、私の子どもの頃の1学級25人程度が2クラスありました。同じクラスで6年間付き合っていくとなると、いい面も悪い面もその人と付き合っていかなければいけないですが、そこでかなり自分も譲歩しなければならない部分もあるし、お互い分かりあって成長していくという非常に重要部分が、小学校で成長していくのだと思います。それが大人数になることによって、必要な成長が果たしてできるのかなと思います。やはりそこでも子どもがもう学校に行きたくないとか、何か問題が発生したときには、親がフォローしなければいけないと思うのですが、今の高丘地区の中ですと、親同士が顔見知りになっているわけですね。これがもし子ども同士の問題で、親同士が平野と高丘ですと、かなり距離があります。どこのどういう人かも全く分からない、そんな中で親同士が一から人間関係を築けるかという問題も発生してくると思います。
- 通学も歩いて学校に通うというのは、子どもの教育にとって、私の経験もそうですが重要視しています。やはり通う間にいろんな発見があるわけですが、ヘビが道に這っていたとか、あそこにリンゴがなっているよとか、やはりそういうものが、上下関係なく一

緒に通うと伝えられていくと思います。先程も大俣の話がでましたけども、現状をみると大俣には子どもが1人くらいしかいないんです。やはり皆戻ってこない。私の時の牛出地区も子どもは少なかったのですが、今非常に子どもが多くて、私世代の人が引っ越してきたからです。子ども同士、学校から帰ってくればどこの家に遊びに行ってしまうとどこに行ったかわからないことがある、同級生が減ってしまうと子ども同士の繋がりが逆になってしまう、ぜひとも高丘小学校の現状は変えてほしくないという気持ちであります。

意見

- 私は学校から配られてくるものは全部ファイルにして6年間、上の子の分も含めれば12年間保存していますが、各地区へのアンケートをとられたのはいつ頃ですか。配られた文書を見ても無いのですが。

回答

- 審議会の皆さんがアンケートをとられたということです。

意見

- そのアンケートは抽出してやられたのか、それともどこかの地区をやられたのか。

回答

- 全家庭です。

意見

- 全部ファイルにしているので、この前別地区のお母さんに貸してくれと言われて貸した覚えがあり見返したのですが、ここ数年の中でそういうのが無かったですみません。ただ、実際にアンケートをされたということであればいいと思います。
- このような形の基本方針にそって説明会を開催され、今回保護者との懇談会を開催されましたが、この段階で明確にするのは難しいとは思いますがどんなご予定でしょうか。

回答

- スケジュールについては、保護者懇談会のご意見と説明会でのご意見をまとめ、そういったことを全部精査したうえで、最終的に今の基本方針案でいくのか、一部変更するのかを検討し、今の段階では何とも言えませんが、再度お示しした中でもう一度市民説明会を開催してご理解をいただいた後に決定していきたいと考えています。今の時点でいつ頃どうなるというスケジュールは言えない状況でございますが、いずれにしろ、今いただいた意見等につきましては、十分参考にさせていただきたいと思っております。

意見

- 一番最初に他の地区の状況をお聞かせくださいと意見して、お話していただいたのですが、当然他地区では統合してほしいというお話が多い、ただ条件付きというご説明をいただいて、ごもっともだなと思っています。実際に少人数化が進んでしまっただけで統合になったというのを実際に経験していますので、そういう意味で他の地区の皆さんにしてみると、早くどういった方向にいくのかというのがありまして、もう肯定的な面が投げかけになっていけばお聞かせ願いたいなと思い質問させていただきました。今のお話ですと、まだもう少し精査、練ってから、あるいは関係される皆さんのお話を整理してから進められる、ここは間違いないということによろしいですか。

回答

- はい。

意見

- さっきの話でもあるように、高丘のことに限らないと思いますが、強引に進めないということをおっしゃってくださって、そうすると地域ごとの考え方や、人数が少ない地域であればこういう方がいいのではという考え方もあると思いますが、高丘の方はもう一度見直しをして統合はしないということも考えとしてあるのでしょうか。
- やはり数字できったほうが、説明がしやすいと思います。資料の中でも複数学級がないことや30人1クラスという規模で考えれば、高丘はひっかかることになる、でもそれを統合しないとなると、説明がすごく難しくなるのかなというのは分かります。数字でみれば誰もがああそうかと納得できるとしても、答申書にもあったように地域の考え方とか地域の在り方を大事にするということが書かれていましたので、大方の意見だと小学校を残してほしいというのが高丘では強かっと思うのですが、高丘だけ統合しないということもあり得ますか。ここで返事をするのは難しいかもしれませんが。

回答

- 教育委員会で十分議さない段階で、そうします、やりませんという答えができません。申し訳ないですがこれから協議していきます。

意見

- 協議には含めていただけるということで考えてよろしいでしょうか。

回答

- これからまた教育委員会の中で十分議していきたいと思っています。いただいた意見についてですが、今皆さんがおっしゃっていることが子ども達にとって統合よりも現状の方がより良い環境だということであれば、考えていきたいと思っています。

意見

- 複数クラスの方がいいと選んだ根拠をお聞かせください。国連の子どもの権利委員会では、過度の競争はしない方がいいということで、政府に対しても警告があることは皆さんご存知だと思いますが、そんなに競争させなくても小学生の是非というのは自分が大事にされるということの中で、自己肯定感、自信をつけていくというのがやはり大事なことだと思います。
- 私の小さな経験かもしれませんが、小学校3年生のときに20人学級で私立だったんですが、4年生のときに転校して公立の学校で40人もいて驚きました。転校するまでは大人数で楽しそうだなとか、クラスがいっぱいあった方がいいなと思ったのですが、移ってみてショックというか元気がなくなったというか大変だったので、やはり複数学級を基準にしなくてもいいのかなと思ったのですが。

回答

- 競争ということについては、いわゆる意味のない競争はやってはいけないと、これは今現場にいる先生方も同じことを考えていると思います。ただ、1つの例ではありますが、運動会のかけっこで、1等賞、2等賞というのを一時やめたことがあります。今はまた復活しています。あれは無用な競争とは考えてはおりません。子ども達の運動会をみればすごい盛り上がりです。周りの方々も手をたたいて最後走っていく子ども達にも拍手をして皆手を叩いて称えている、ああいう姿はいわゆる無用な競争ではないと思っています。切磋琢磨という言葉をあえて基本方針に入れていませんが、切磋琢磨についても、変なふうに競わせて、変なふう子どもを悲しませるということは、絶対に教育現場ではあってはならないことだと思っています。
- 複数学級ですが、教育委員会では、集団の中で子ども達は育っていく、この共通認識をまず持って、いろいろ具体例を挙げてスタートさせました。その中で、単級でも集団の中じゃないかという論理が成り立つわけですが、ただ学級が複数になると、お互いに他の学級の良いところや悪いところに気づいてきます。他のクラスに自分たちも負けなように、社会科の発表では、廊下に貼ってある成果をもっといい写真つけて発表しようとか、そういうような具体的な例があります。

意見

- 今の小嶋教育長さんのお話にもありましたが、クラスが2つあることによって、お互いがお互いの良さを認めて、それを追及できる良さがあるとおっしゃっていたのですが、小規模校であったとしても単級であったとしても、1年生から6年生までみんな顔見知りになって、1年生は2年生の、2年生は3年生の良さを見つけて、あんなふうなおにちゃんやおねえちゃんになろうって、小規模校だとそのようなことが芽生えるのかなと思うのですが、その点についてはどうお考えですか。

回答

- 児童会の委員会で3年生から6年生まで小さい子から大きい子まで全部一緒になっていると、今言われたように大きいおねえちゃん、おにいちゃんと身近に活動ができるし、大きい子が小さい子の面倒を見る、小さい子が6年生の〇〇さんは優しくていいな、私もああいうふうになりたいな、それは縦割りの2学年の良さであります。

意見

- それを先生の方から縦割りのものをわざわざ組織立ってつくるのではなくて、小規模校であればもう1年生から6年生まで顔見知りで名前も知ってて、そういう環境がとてもいいんじゃないかなと思います。

意見

- 集団行動という点で、高丘と平野と一緒にいろいろな発表とか行事について、学校間の交流というのは現実的に難しいことなのでしょうか。

回答

- 教育委員会としては、統合とか抜きにして、小中学校の先生方に、交流活動を活発にやってほしいと伝えてあります。お互いに違う学校に行っている子と知り合って仲良くするということは、その子にとってすごくプラスになるので、交流の連携は大事なことです。市内では、社会見学から修学旅行、キャンプを一緒にやりましょうとか、とても活発にやっているところはあります。地理的な条件もあるのですが、あまり交流ができていない学校があるのも事実でございます。ただ先生方の事前打ち合わせや、次の年に繋げていくということなど、大変な部分もあります。